児童館行事における世代間コミュニケーションへの影響に関する研究
－世田谷区等々力児童館を対象として－

都市空間生成研究室
2141086　　髙崎　晴菜

世代間交流　　児童館　　行事
コミュニケーション　　地域コミュニティ

1. 研究の背景と目的

近年、子どもの遊び環境をめぐる問題として、三間の減少[注1]が挙げられる。子どもを取り巻く環境は日々変化し続けており、公園でのボール遊びの禁止や規制の強化によって子どもの遊び場不足が問題となっている。地域のつながりの希薄化、少子化により、「子どもや若者が、地域コミュニティの中で育つ」ことが困難になっているという現状がある。地域コミュニティの希薄化は、他世代との関わりやコミュニケーション不足から起こるものである。本研究では、児童館を地域の子ども同士の繋がりの場としてだけではなく、大人と子どもや大人同士のコミュニケーションの場として位置づける。

そこで、児童館行事における、世代間コミュニケーション[注2]の実態を把握し、それによる他世代との関わりが、その後の日常的な世代間コミュニケーションに与える影響を明らかにする。そこから、児童館行事による世代間交流が地域コミュニティの希薄化への解決の手がかりとなる為の知見を得る。

2. 研究の対象地と概要

23 区の中でも面積が広く、閑静な住宅街の広がる世田谷区を対象地域に選定した。子育て支援も充実しており、住みやすい街としてファミリー層に人気のある地域である。世田谷区内には児童館が 25 施設あり、全て公設公営[注3]である。本研究では、地域交流事業として発信されている行事数が区内でも多い等々力児童館を対象施設に選定した。周辺には小学校や私立の中高一貫校があり、朝や夕方には学生の姿で賑わいがある。

図 1.　児童館の外観

3. 研究方法

筆者が参与観察を行い、日常時とイベント時のコミュニケーション様子を比較する。そして、行事の参加者へアンケート調査により、日常とイベントでの他世代交流の実態を明らかにする。その後、利用者や児童館関係者ヒアリング調査を実施し、世代ごとの世代間コミュニケーションの実態を明らかにする。調査結果を基に、世田谷区の児童館行事に関する今後の展望を考察する。

4. 世代間交流の観察調査

4-1　調査目的

児童館の日常の様子、また、今年度実施された行事を対象に参与観察を行い、日常時とイベント時でどのようなコミュニケーションが発生していたかを比較する。

4-2　調査結果

日常生活では、世代を問わず来館時や退館時に児童館職員に挨拶をする光景が度々見られた。

サマーキャンプでは、自然空間の中で活動や遊びを通してコミュニケーションをとる様子が見られた。また、食事の準備や片付け等は、児童館ではサマーキャンプ特有の活動であり、日常では体験出来ないものであった。

また、毎年秋に開催される児童館祭りであるあそべ村では、幅広い世代の人同士のコミュニケーションが発生していた。また、他世代とのコミュニケーションという面では、参加者よりも、運営に関わる子どもや大人、児童館職員の方が多い傾向にあることが分かった。

図 2.　児童館行事の様子

5. 行事による世代間交流に関する調査

5-1　調査目的

日常時とイベント時の世代間交流の違いについて明らかにすることを目的とし、子どもと大人それぞれにアンケート調査を実施した。

5-2　調査結果

5-2-1　子どもを対象とした調査

地域の大人を見かける頻度を「ほぼ毎日」と回答した人の割合が最も多かった。それに対して、ほぼ毎日挨拶をする人は約 20%、会話をする人は 5%未満と大幅に減少した。一方で、あそべ村では、挨拶、会話は 80%以上の人が 5 段階評価の内、どちらかといえば多い、非常に多いと回答した。

5-2-2　大人を対象とした調査

子どもと同様に、地域の子どもを見かける頻度は「ほぼ毎日」と回答した人の割合が約 65%と最も多かった。しかし、挨拶や会話をする人は約 26%と減少していた。一方で、あそべ村では、挨拶、会話は 80%以上の人が 5 段階評価の内、どちらかといえば多い、非常に多いと回答した。

日常で他世代とのコミュニケーションをとっていない人も、児童館行事の中では関わりが発生していることが分かった。日常的に、子どもも大人も、他世代を見かける頻度は高い一方で、コミュニケーションの有無を尋ねると大幅に減少している。これは、子ども、大人共に児童館での日常時とイベント時に、世代間交流の機会の差があるためであると考える。

6. 利用者と職員へのヒアリング調査

ヒアリング結果から、日常時よりイベント時の方が、世代間交流は発生しており、コミュニケーションの機会が多いことが分かった。日常時は、基本的に知り合い同士のみでの交流である。(図 3) 一方で、あそべ村の事例では、大人と子どもが共同で出店することでそのお店のなかで会話が生まれていた。また、お客さんと店員がモノやお金のやり取りをしたという声も多くあったことから、普段とは違う活動により、世代間コミュニケーションが発生しやすくなることが明らかになった。(図 4)

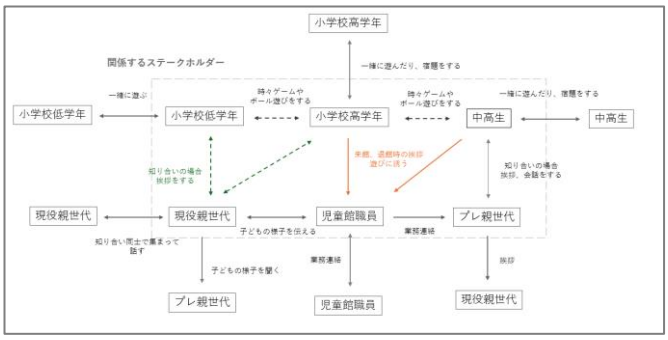

図 3.　日常時の関わり

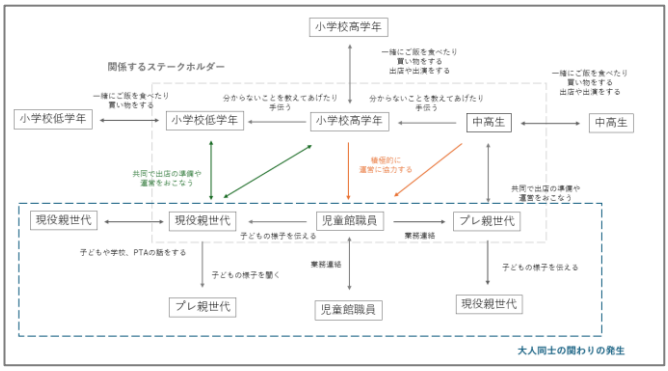

図 4.　あそべ村の関わり

そして、コミュニケーションをとる理由として、共に過ごす時間も長い為、時間が経つにつれて子どもたちも自然と心を開きやすくなっていたこともわかった。また、調査の結果、子ども、大人共に、行事での経験や思い出は、児童館での日常生活よりも強く印象付けられ、記憶に残りやすいことがわかった。

7. 結論

本研究では、世田谷区等々力児童館を対象地として、児童館行事がもたらす世代間コミュニケーションへの影響は大きなものであることを明らかにすることが出来た。等々力児童館では、行事により、子どもたち同士だけでなく、子どもと大人、大人同士が出会い、会話をするきっかけづくりが行われている。また、子どもの権利や意見、発信を重要視し、行事運営に取り入れている。これは、他施設にも活用できる点である。

調査結果から、児童館行事による世代間コミュニケーションの発生には、「共有する時間の長さ」と「非日常空間」、「関係する世代の幅」という主に 3 つの要因が関係していると考える。各行事で特性を生かした活動が行われており、児童館での世代間コミュニケーションのきっかけとなっていることが分かった。行事をきっかけに日常的な児童館でのコミュニケーションに繋がり、日常での関わりから新たに子どもたちが楽しめるイベント・行事がつくられるという相乗効果が期待できる。このような世代を超えたコミュニケーションの発生は児童館行事実施の意義であると考える。

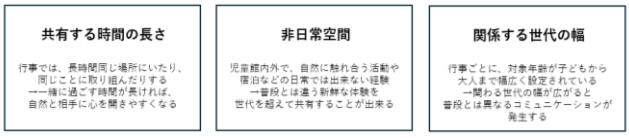

図 5.　行事によるコミュニケーション発生要因

本研究は、等々力児童館を対象として児童館行事が、地域コミュニティの希薄化の解決に繋がる知見を得ることを目的としたが、他の市町村の児童館ではどのような行事が実施され、世代間コミュニケーションが発生しているのか、引き続き調査が必要である。

注

1)三間とは、子どものスポーツや 外遊びに不可欠な要素である 時間・空間・仲間の三つの「間」のことである。

2) 他世代との関わりのことを指し、挨拶や会話などの基本的なコミュニケーションの総称のこととする

3) 公設公営の施設は自治体が運営。正規職員の身分は公務員となる。

参考文献

1)世田谷区の現況資料
https://www.city.setagaya.lg.jp/documents/6008/10_genkyo_1.pdf
（最終閲覧日 2025 年 1 月 20 日）

2) こども家庭庁　児童館について
https://www.cfa.go.jp/policies/kosodateshien/jidoukan/about

3) 地域の「子ども施設」としての児童館の役割　みずほ情報総研レポート vol.17 2019 （最終閲覧 2025. 1.22）
https://www.mizuho-rt.co.jp/publication/2019/pdf/mhir17_children.pdf